

平成 27 年度 安田女子大学心理学会 会 報

目 次

1. 学会長挨拶
2. 役員一覧
3. 主な活動
4. 講演会の記録
5. こころと出会う仕事（卒業生紹介）
6. 私の研究紹介（心理学科 4 年生）
7. 教員の研究紹介

1. 学会長挨拶

会長 池田 智子

(安田女子大学心理学部教授)



「心理学科を卒業すると、どんな仕事につけますか。」
学科の説明会等で、高校生みなさんによく尋ねられる質問です。この質問は、「心理学を勉強するとどんなことに役に立ちますか」に置き換えられる質問でもあるように思

います。このような質問を受けるたびに、私が考える心理学が役にたつ具体的な場面や、これまでの心理学科の卒業生が就職していった業種に関する実際のデータについてご紹介するのですが、こういった質問が出てくるのも、心理学の学びに特有のものであるように思います。

こういった質問を受けた時に私がよく持ち出すのは、心理学の領域の中でも応用的な心理学領域での心理学的知識や技能の活用です。心理学は、「心とはなにか」といった私たちの根源的問いに客観的データに基づいて答えようとする基礎的学問の側面とともに、教育や福祉、臨床、産業等の現実的な問題に対処する知見を提供する実践的学問の側面を持っています。たとえば、「子どもにどのように教えたらうまく問題が解けるようになるか」とか、「どのようなパッケージの色が消費者の購買欲を高めるか」といった極めて現実的な問題に、心理学の研究で得られた知見は大いに役立ちます。しかし、こういった心理学的知見を活用した具体的なエピソードを示しただけでは、心理学の学びの有用性について十分に説明したとは言えないと考えています。

私たちは心理学を学ぶことで、人間の多様性や普遍性に気づき、それを受け入れることができるようになります。また、人間や人間を取り巻く状況について、独りよがりではなく、客観的に、確かな根拠に基づいて判断できるような態度が持てるようになります。心理学を深く学ぶことで、周りの他者とうまく関わりながら、よりよく生きていくために必要な考え方や見方を身に付けることができるのです。このような心理学の学びの大きな役割は、日々の暮らしの中でなかなか実感しにくいものではありませんが、決しておろそかにできない大切な役割だと考えています。私たちは心理学の学びが持つこの役割を、大学における日々の心理学の教育活動においても、また、この安田女子大学心理学会の活動においても大切にしていきたいと思っています。

2. 役員一覧

会長		池田 智子
理事・運営委員長		船津 守久
理事・運営委員		藤原 裕弥
理事・運営委員		山本 文枝
理事		澤田 英三
理事		下平 明美
理事		堂野 恵子
理事		西 まゆみ
理事		西川 京子
理事		西村 聡生
理事		橋本 博文
理事		藤沢 敏幸
理事		山内 廣隆
正会員監事		片上 宗二
学生監事		有谷 久美子
学生運営委員	1 年 1 組	中本 初花
学生運営委員	1 年 2 組	長井 帆七
学生運営委員	2 年 1 組	久保 万里菜
学生運営委員	2 年 2 組	小林 なな子
学生運営委員	3 年 1 組	有谷 久美子
学生運営委員	3 年 2 組	三笹 紀京
学生運営委員	4 年 1 組	久國 綾華
学生運営委員	4 年 2 組	長尾 侑香

3. 主な活動

(1) 講演会

第1回 日時：平成27年7月9日（木） 13:10～14:00

場所：安田女子大学 7号館 7102教室

演者：橋本 博文先生（安田女子大学心理学部講師）

演題：「はだかの王様」と心の文化特定性

～日本人らしさについて考える～

対象：学会員のみ

第2回 日時：平成27年11月28日（土）予定 13:00～14:15

場所：安田女子大学 7号館 7102教室

演者：川瀬 啓子先生（安田女子大学名誉教授 臨床心理士）

演題：安田リヨウ先生が伝えてくださった＜柔しく剛く＞

対象：学会員、一般

(2) 総会

日時：平成27年7月9日（木） 14:10～14:30（第1回講演会終了後）

場所：安田女子大学 7号館 7102教室

4. 講演会の記録

第1回講演会

「はだかの王様」と心の文化特定性 ～日本人らしさについて考える～

橋本 博文 先生

(安田女子大学心理学部講師)



今年度、安田女子大学心理学部心理学科に着任されました橋本博文先生に、現在取り組まれているご研究についてお話しいただきました。橋本先生は、社会心理学をご専門としておられます。本学の講義は、社会心理学のほか、心理統計法、異文化理解などをご担当いただいています。

(講演記録)

「心でっかち」という言葉があります。これは、私の指導教官である山岸俊男先生がつくった言葉です。「頭でっかち」という言葉は、みなさん聞いたことがありますよね。一般には、知識や理屈ばかりで行動が伴わないことを指します。知識や理屈と行動のバランスがとれていない「頭でっかち」に対して、「心でっかち」というのは、心と行動のバランスがうまくとれていないことを指します。心でっかちな考え方というのは、他人の行動の原因をその人の心にばかり求める考え方だと理解してもら

ってもかまいません。こうした考え方にとらわれてしまうと、私たちにとって身近な社会問題の多くをすぐに個人の心の問題に置き換えてしまいます。若者たちによる凶悪犯罪を耳にすれば、若者たちの心の荒廃のせいだとすぐに結論づけてしまう。日本人が海外で悪行をはたらいたと聞けば、日本人の古き良き思いやりの心が失われてしまったと声を荒げてしまう。テレビをつければ、心でっかちな考え方にとらわれている人をたくさん見つけることができるはずです。

今日みなさんには、せっかくの機会ですので、簡単な自己紹介を含めつつ、心でっかちな考え方をやめてみよう、という話をしたいと思います。この話をするとき、私はいつもアンデルセン童話の『はだかの王様』の物語を題材として取り上げます。どうしてかと言うと、この物語は、私たちの行動から構成される社会が個人の心によってのみ決められるわけではないことに気づかせてくれる、とても良い題材だからです。ご存知のように、この物語の登場人物たちは、王様がはだかであることをちゃんとわかっています。でも、登場人物たちは、バカな奴だとか自分にふさわしくない仕事をしている奴だと思われたくないから、王様ははだかだと言い出すことができません。まわりの人たちの様子をうかがいながら、見えもしない王様の衣装を褒めそやすわけですね。このとき、王様の衣装を褒めそやす人たちのことを、心でっかちに理解するとどうなるのでしょうか？もしかすると、「はだかであることをとても大切にしている人たち」などと理解してしまうかもしれませんね。

私はなんにも、心でっかちな考え方が悪い考え方だと言いたいわけではありません。こうした考え方は私たちがもっている「心のクセ」のようなものであり、私自身も心でっかちな考え方にとらわれてしまうことはもちろんあります。しかしだからこそ、心でっかちな考え方が、時として他人の行動や社会を見る目を曇らせてしまうという事実を、私たちは心に留めておく必要があると思います。先ほどのように、「はだかであることをとても大切にしている人たち」などと理解してしまう人を、きっとみなさんは笑うでしょう。でも、みなさんが笑うのは、登場人物たちがどうして王様の衣装を褒めそやすのかの



理由をちゃんとわかっているからです。しかしふつうは、他の人たちの行動の(本当の)理由なんて、わかっていないことのほうがほとんどです。そうすると、心でっかちな考え方に一切とらわれていないと言い切れる人はきつといないと思います。今日は、文化に特有とされる心や行動についてお話しますが、自分が心でっかちな理解をしていないかを考えながら聞いてくれると

嬉しいです。

さて少し余談になりますが、心でっかちという言葉は、山岸俊男先生の『心でっかちな日本人』という本の中で詳しく紹介されています。この本は、私を地元の香川県から遠い北海道へと誘ってくれた本なんです。この本を手にとったとき、私は香川大学教育学部の1年生でした。小さいころからずっと野球をやっていて、高校生のときは、一応(一応ですよ)甲子園に行きたいと思って、勉学はそっちのけで練習に明け暮れていました。野球中心の当時の私がどんなことを考えていたのかを思い返すと、少し恥ずかしくなります。たとえば、「女の子と話すと打率が下がる」とか。「どうしてそんな風に考えるんだ!」とツッコミをいれたくなるようなことを考えていたわけですね。モテない男子を“こじらせる”と本当に大変ですよ。私の当時のちょっとユニークな考え方というのは、勉学がいかに大切かを物語っているようにも思います。しかし、かといって、打ち込んでいた野球のほうはどうかという、地方大会の一回戦で敗退(しかもコールド負け)という結果でした。

大学生になると、地元の香川大学に入学したこともあり、このまま香川で中学校の教員になって、できれば野球部の顧問になって・・・と、漠然とではありましたが将来について考えはじめていました。しかし、いじめに関するレポートを提出するためにたまたま『心でっかちな日本人』を手にとったことをきっかけに、今すぐに著者である山岸先生のもとで勉強してみたいと思ってしまったのです。大学を中退してまで北海道大学へ編入学をしたいと思った理由は、今となってはうまく言葉にできません。それらしい理由を用意できそうなものですが、正直なところ「ただ若かったから」という理由が大きかったように思います。また当時、斎藤孝先生の『読書力』という本に影響を受けて、手あたりしだいに本にあたっていたことも関係しているかもしれません。何かの本に「たとえどんな人でも10年続ければその道のプロになれる」というようなことが書いてあり、その言葉に触発されたというもあります。今、その言葉を記した誰かに言えることがあつたら、「よくも騙したな!」ですね。

北海道大学に編入学してから博士号をとるまでの7年間、幸いにも私は『心でっかちな日本人』という本で紹介されていた研究と深くかかわる、いわば「後続の研究」に携わることができました。そのひ



とつが心の文化特定性に関する研究です。具体的な実験をひとつ紹介しましょう。たとえばみなさんが、あるアンケート調査に参加し、調査担当者から「調査協力のお礼としてボールペンを1本差し上げます。好きなペンを選んでください。」と言われたとします。実験者から差し出されたのは5本のペンです。どれも同じ黒のボールペンですが、外側の色だけがちょっとちがっています。5本のうち4本が同じ色、のこりの1本だけが違う色をしています。さてみなさん、数の多い色のペンを選ぶでしょうか？それとも、1本しかないペンを選ぶでしょうか？この実験を行った文化心理学者たちは、とても興味深い文化差を明らかにしています。東アジアの人たちは数の多い色のペンを、欧米文化圏の人たちは1本しかないペンを選ぶ傾向が強いという文化差です。

どうしてこのような文化差が示されたと思いますか？一つの答えは、「日本人を含む東アジアの人たちはみんなと一緒にであることが好きだという好み(同調性への選好)を、欧米の文化を生きる人たちはユニークであることが好きだという好み(ユニークネスへの選好)を有しているから」という答えです。特定の文化を生きることによって身につく選好(文化的選好)が、ペン選択行動に反映されているという理解ですね。私は、こうした理解が間違っているとまでは思いませんが、この答えに満足することはできません。言い方は悪いのですが、こうした理解は心でっかちな文化理解に思えるからです。では、どうして文化差が示されるかという問いに答えるために、どのようにアプローチすればよいでしょうか？方法はいくつかあると思いますが、私自身が好んで用いているのは、実験的に文化差を消失させるというアプローチです。これは文化差に対して影響を与えていると理論的に考えられる変数を操作すれば、文化差は消失するはずだ、というアイデアがベースになっています。

私が所属していた研究チームでは、数の多い色のペンを選択する行動は、同調性を好む選好を反映しているのではなく、他人から嫌われてしまう可能性をできるだけ減らす戦略を反映しているのだと考えていました。この考えの妥当性を検討するために、他人の目を気にする必要がある状況(5人の参加者のうち、最初にペンを選択する状況)と、他人の目を気にする必要がない状況(5人の参加者のうち、最後にペンを選択する状況)を設定したのです。ある実験研究*1の結果は、状況間の差が明確になることを示しています。他人の目がある状況では、数の多い色のペンを選ぶ人の割合が93%(女性に限れば100%)、つまりほとんどが数の多い色のペンを選択します。しかし他人の目を気にする必要がない状況では、数の多い色のペンを選ぶ人の割合が52%まで落ち込みます。これは心でっかちな文化理解に対して疑問を投げかける結果です。ペン選択行動が、同調性への選好の反映であれば、他人の目がなくても数の多い色のペンを選ぶはずだからです。

もうひとつだけ研究を紹介します。先ほど紹介した実験研究は、文化に特有とされる行動が、当該の文化を生きる人たちの選好の反映とは限らない、ということを明確にしています。こうした研究を踏まえつつ、私は、日本人はどうして日本人らしく振る舞うのかを検討するための研究に着手しました。具体的な調査研究^{*2}を紹介します。この研究ではまず、文化心理学における先行研究をレビューし、独立的な(北米人らしい)人間と協調的な(日本人らしい)人間についての紹介文を作成します。そして、その紹介文を日本人とアメリカ人に読んでもらいます。その後で、どちらの人のように振る舞いたいのか、個人的にどちらを評価するか、あなたのまわりの人たちはどちらを評価すると思うか等を尋ねます。結果はとても興味深いものです。日本人は、個人的には独立的な人間のように振る舞いたいと答えますし、独立的な人間を個人的に好ましく評価します。しかし、まわりの人たちは独立的な人間を否定的に、また協調的な人間を肯定的に評価するだろうと予想していました。

こうした調査のみから明らかにできることには限りがありますが、私はこれらの結果を何度も手にしていく中で、日本人らしいとされる行動について一つの解釈を持つに至りました。それは、日本人らしいとされる行動の背後には、『はだかの王様』と同様の構造があるのではないかと、いうものです。心でっかちな考え方によれば、日本人らしい行動の背後には、日本人らしい心(日本人らしさに対応する価値観や選好)があると考えerはずです。でも、こうした考えは正しくないようです。日本人らしいとされる行動に対して個々人がどのような価値観や選好を持っているかはともかく、他の人たちからの肯定的な反応を求めようとする結果として、日本人らしく振る舞っている、と考えたほうが妥当なのかもしれない、というわけです。日本人らしさをもたらす誘因(インセンティブ)は、結局のところ私たちの行動そのものだと言い換えることもできるでしょう。私たちはお互いに他人からの反応を予想しあい行動しあう。そうした中で日本人らしい行動をとりあっている、というわけですね。

最後に少しだけ。私はここに勤めはじめてまだ3か月しかたっていませんが、心理学科の学生さん



の多くは、臨床系の心理学に興味を持っているように見受けられます。したがって、今日私が紹介した文化心理学の研究や、私の専門である社会心理学の研究というのは、みなさんの興味・関心から少しそれてしまうかもしれないのではないかと心配しています。でも、文化心理学や社会心理学という学問はととても

面白いですよ。これからみなさんとは、講義やゼミなどいろいろなかたちでかかわっていくと思いますが、そうしたかかわりの中で、文化心理学や社会心理学が持っている面白さを一緒に共有したいと強く思っています。欲を言えば、社会レベルでの問題を、自分とは関係ない問題として思考の外へと追いやってしまうのではなく、心理学の知見を応用しながら、自分自身の問題として分析しようと思ってくれれば、とっても嬉しいです。社会心理学を専門とする一教員として、そうした学生さんが増えるように、私にできることからやっていきたいと思っています。

(参考文献)

*1 **Hashimoto, H.**, Li, Y., & Yamagishi, T. (2011). Beliefs and Preferences in Cultural Agents and Cultural Game Players. *Asian Journal of Social Psychology*, 14, 140-147.

関連文献として、

Yamagishi, T., **Hashimoto, H.**, & Joanna Schug (2008). Preferences vs. Strategies as Explanations for Culture-Specific Behavior. *Psychological Science*, 19, 578-583.

Yamagishi, T., **Hashimoto, H.**, Cook, K. S., Kiyonari, T., Shinada, M., Mifune, N., Inukai, K., Takagishi, H., Horita, Y., & Li, Y. (2012). Modesty in Self-Presentation: A Comparison between the U.S. and Japan. *Asian Journal of Social Psychology*, 15, 60-68.

*2 **Hashimoto, H.**, & Yamagishi, T. (2015). Preference-Expectation Reversal in the Ratings of Independent and Interdependent Individuals: A Comparison of Participants from the United States and Japan. *Asian Journal of Social Psychology*, 18, 115-123.

関連文献として、

橋本博文 (2011). 相互協調性の自己維持メカニズム 実験社会心理学研究, 50, 182-193.

(講演記録 終わり)

参加した学生の感想

私は初めての安田女子大学心理学会講演会の参加ということで少し緊張していましたが、とても楽しいご講演でした。ボールペンの実験では、最初の人が多いボールペンの方を取り、最後の方は1本だけの特別な色のボールペンを取るということが外国人とは違う、日本人の心配りだと感じました。はだかの王様のお話では、初めはこれに心理学が働いているとは思わなかったけれど、後からよくよく考えてみると、服を着ていない王様のことをみんなが服を着ていると信じるということは、町の人たちの心理に何かしらの影響があったということが分かったし、また橋本先生が誰でも知っているはだかの王様を題材にしてくださいだったので興味もわき、とても分かりやすかったです。行動は自分の「心」によってだけで決まるのではなく、「心でっかち」になってはいけないという先生の言葉は、これからの生活でも心がけていきたいと思います。

心理学科1年 長井 帆七

安田女子大学 心理学会 講演会

「はだかの王様」と心の文化特定性
～日本人らしさについて考える～

2015年7月9日(木)
13:10～14:00

7号館1F 7102教室

講師
橋本博文先生
安田女子大学心理学科講師

専門領域 社会心理学・文化心理学
研究内容 なぜ心のはたらきには文化によるちがいがあるの
だろう？
どうして私たちは「日本人らしく」振る舞うのだろ
う？ など

＊どなたも、どうぞご自由にご参加ください。
＊13:00 までに、着席してください。
＊終了後、心理学会総会を開催します。(14:30 終了予定)

【お問い合わせ】 安田女子大学 心理学科事務室 (8号館5階 8518)
TEL & FAX 082-878-0150 〒751-0155 広島市安佐南区安東6-15-1

第2回 安田学園創立100周年記念講演会

「安田リヨウ先生が教えてくださった＜優しく剛く＞」

川瀬 啓子 先生

(安田女子大学名誉教授 臨床心理士)



安田学園は創立100周年を迎えました。これを記念し、今年度の公開講演会は、本学名誉教授の川瀬啓子先生をお招きし、創立者安田リヨウ先生についてお話しいただきました。文書や記事には書かれていないところのご日常のエピソードなど貴重なお話しをお伺いすることができました。この場をお借りして、御礼申し上げます。

(講演記録)

私にとって安田リヨウ先生はどのような存在だったか、それはお手本ともモデルともとても言えないほどすごい存在です。愛しんでくださったという思いはとても深く、それに少しでも応えたいというのが私のこれまでの原動力となったように思います。

皆さんは、安田リヨウ先生にどのようなイメージをお持ちですか。ただ、“こんなイメージです”ということが何か申し訳ない、そんなかんじの方なのです。それが伝わるという思いながらお話しいたします。

力強く生きた女性、そして夫婦両輪

NHK 朝の連続テレビ小説「あさが来た」をご覧になつていますか。なかなか面白いです。幕末を生き抜いた広岡浅子さんという実際の女性がモデルです。この女性は、大変経済的な基盤に恵まれたお家に育ったお一人です。実家は今も連綿と続く三井財閥、日本でとても大きな財力をもつ三井家に生まれています。女が本を読んではいけない、お茶、お華、お琴、お裁縫はできなくてはいけない、商売に口出ししてはいけない、家で旦那を支える役割である、という躰を受けておられます。彼女はそれに疑問を抱かないのですが、その

ようなことにそぐわないお転婆な少女時代が描かれていました。いい名づけの大阪の豪商に嫁ぐのですが、夫は全く商売に興味がなく、芸事に精を出している人。ニコニコしていつも巾着袋を振り回しながらお三味線の師匠のところに来る。浅子さんは年が離れたお嫁さんでしたが、彼女がやることに一切口を出さない夫でした。

広岡浅子さんは紆余曲線ある中で、やはり女性にも教育が必要だと思われた方です。そして、成瀬仁蔵さんと出会い、日本女子大の創立に大変な尽力をされました。あの時代の女性の中には、なんとか世の中を変えていかなくてはならない、その中で何か自分も何か役に立ちたいと思った人たちが何人もいて、それぞれ大変魅力的です。連続ドラマを機会に広岡浅子さんを知り、あの時代の歴史をひもとくと、女性たちがこのように考え、頑張っていたのかと勇気づけられます。

安田リョウ先生は、明治十七年のお生まれですから、広岡浅子さんの時代よりも少し遅れてということになります。安田女子中・高等学校のホームページを開くと、安田学園の歩みが書かれています。夫の安田五一先生は、五月一日のお生まれと伺っております。そして次のように紹介されています。

『広瀬村の素封家に育った安田リョウは、「女の子は教育など受けなくていい」という風潮の中、東京の女学校まで進みます。

その中で「女性にも教育が必要だ」との思いから女性のための学校をつくり、安田学園がスタートしました。

女性の生き方を問い続けた安田リョウと、女性教育の道を切り拓いた安田五一により誕生した安田学園は、大正4年に始まって以来、100有余年となります。

安田学園は、当時では珍しい「夫婦共同の夢」から出発したのです。』

残念ながら、五一先生は原爆が落ちたときにお亡くなりになりました。大変な被災の状況でした。私はお目にかかったことがないため深く考えていなかったのですが、だんだん年をとるにしたがって、やっぱりすごいことなのだとしみじみ思い始めました。妻の夢に夫がとことん協力したのです。当時ではめずらしい夫婦共同の夢から出発されました。

『安田リョウが93才の生涯を閉じるまで、何よりも大切にしていたのが生徒や卒業生から送られた寄せ書きでした。』

久しぶりに安田リヨウ記念館に行き、卒業生から送られたさまざまな色紙や短冊などが飾られているのを見ました。同窓会の唐花会の方が、米寿のお祝いはどのようなプレゼントがよろしいでしょうかとお伺いされたときに、

「何もありません。皆さんが書かれたものが欲しいです」

とおっしゃったそうです。生徒さんとやりとりされた手紙がたくさん展示されています。リヨウ先生の字は素晴らしい字です。とても達筆でいらっしゃって、力強い字なのです。私もお手紙をいただいたことがあり、大事にとってあります。リヨウ先生にお礼を申し上げたとき、

「私は誰かに習ったという字ではないのです。とにかく書きなさい。何度も書いているとだんだん自分の字というものができてきて、よく書けるようになるものですよ」
とおっしゃいました。そのように学ばれたのが、リヨウ先生が生涯貫かれたひとつのスタイルだった気がいたします。

リヨウ先生と進路

リヨウ先生は、1884年に広島県広瀬村にお生まれになりました。大変恵まれたお家でいらしたと思います。とても大きなお屋敷で、いわばお嬢様です。リヨウ先生には、二人の妹さんがおられます。お一人は、リヨウ先生が父親に許してもらえなかった医学の道に進まれ、大阪で女医さんの走りとなられて、ご夫妻で医師としてご活躍なさっています。その次の妹さんは、本学の体育学でお世話になっている友末先生のお祖父さんにご結婚されました。友末先生は教育者で、安田ご夫妻の両腕となり、力を合わせて安田の草創期からご活躍されていました。私も結婚して広島に来たときに友末先生にお目にかかりました。白髪で風格のあるお姿を思い出します。お家騒動というものがいつの時代にも絶えない中で、きょうだいが寄り合って力を合わせて何かをやっていくというのは、その頃の日本ではうまくいけばとても力を発揮する文化のひとつであったと思います。

リヨウ先生は、ご実家で徹底的に父親に教育を受けることを反対されました。今の時代はだいぶ自由になりましたが、昭和の時代は終身雇用型社会で、学校を中退するのはあまり良いイメージがありません。いくつも学校をおやめになってどうされたのだろうと思ったのですが、“学ぶこと”をあきらめることはされませんでした。冒頭で述べました広岡浅子さんと同様に、芸事やお裁縫をしこまれ、家事すべてできるようにと躰を受けられまし

た。しかし、少女の頃に得意だった三味線の竿を折るというお話がありました。女の道は決められて生きるのではなく、学びたいという広岡浅子さんとよく似た状況があったのではないかと思います。女学校に行くときは周りがはやしたて、まっすぐ普通の道を歩けなかったそうです。男の子に石を投げられ、「女が学校行くんか」といじめられ、遠回りして通学しなくてはならなかったというエピソードが語り伝えられています。医学を目指されたけれども、「女があんな医者のような汚い仕事をするものではない」と、父親にあつという間に連れ戻されてしまいます。広島の中女学校（残念なことに被爆後に消滅しましたが、広島で多くの人を排出した学校です）に学ばれました。この学校の校訓が「柔しく剛く」で、これを受けついで形で安田にもってこられました。

山中女学校をご卒業後、英語を志望されて日本女子大に行かれました。これも「そんな異国の言葉を学ぶ必要があるか」と、父親にあつという間に連れ戻されたと伺っています。そして入られたのが、東京裁縫女学校高等師範部でした。医学、英語とすべて夢破れ、そして裁縫です。最初、その事実を知ったときに、よくそのような方向転換がおできになられたと思いました。しかし、リョウ先生にとっては“学ぶこと”に意味があったのです。そこならば、リョウ先生はおそらく上の学校に行くことができたのです。リョウ先生の人生は、目的のために何が可能なのかということを考えるという極めて現実的であったと思います。そのことは『夜雨滴録』にも書いてあります。

「親に反対されてこれができなかったとか、時代が悪かったとか、そんなことは言い訳にもならない。こうと決めたらそれを実現するためにどうするかを考えなさい」というのが、リョウ先生の姿勢ではないかと思います。

リョウ先生の才能

リョウ先生は、大変に器用な方でした。親指が直角ほどに曲がるのです。まむし指といって、これは器用さの証明だそうです。私自身の祖母がとても器用な人で、まむし指だったのです。昔はクリーニングがないので、洗い張りというものをします。着物をほどいて布を伸ばす工夫があり、板に張り付けて乾いたときにはピンとなっている、というさまざまな工夫がありました。そして、その着物を一晩でまた縫い上げていた。ぞっとするくらいすごいと思います。私自身の祖母も一晩でセーターを編みました。家族の衣類を整えるというのは、当時の女性たちにとっては大変な仕事の量でした。しかし、それが大事な家族を支えるひとつの術であったことは間違いないのです。リョウ先生は、それを見事にこ

なされる方でした。

また、素晴らしく美しい精巧な水引細工を創られていました。水引細工は、きちんと計画を立て、デザインをし、材料を整えるというルーティンがありますが、それがお得意になるのです。きちんとした計画性が必要な作業なのですが、それがお得意でした。極めて優れた才能をお持ちでした。

ご結婚、そしてご家族

ご卒業と同時に、お見合いで安田五一先生とご結婚されました。リョウ先生ご自身が、「この娘は何をしてくすかわからないというので、親がさっさと結婚させた」とお書きになっています。安田五一先生は、今の広銀の前身にお勤めされていました。といったことは、さまざまな人の聞き書きを寄せ集めてヒストリーがわかるのです。リョウ先生は、ご自分の昔のことをあまりおっしゃらない方だったそうです。だから、お子さんたちもほとんど昔のことを伺っておられないとのことでした。

二男五女に恵まれたご生活で、お仕事もフルになさっていらっしゃいました。学校に近い場所にお住まいで、仕事が終わると袴の紐をほどきながら帰って来られ、大家族の料理をつくっておられたそうです。出かけるときには、きちっと計画を立てて準備をしておられたとのことでした。お母さん（リョウ先生）は仕事をしていたけれど、安田家の食卓はいつもとても楽しかったと思い出ばなしが語られています。当時のリョウ先生は、冗談を言ってお腹抱えて笑わせるような方だったそうです。楽しく、物真似が上手だったということが紹介されていました。それってすごい才能です。じっと見て人の特徴をつかみ、真似ができる。それで皆を楽しませていらしたそうです。しかし、これは晩年のリョウ先生のイメージとはちょっと遠いのです。

お仕事は大変スピーディー。五一先生はすぐれた実務家でいらして、夫婦でタッグを組まれたかんじです。寄宿舍にいらした先生方や卒業生の方に聞き取りさせていただいたことがあります。五一先生はとても温かなお人柄だったようで、何でも言えて甘えられたとおっしゃっています。お二人ともきちんとした日課、朝の決まった時間に起床、お散歩。五一先生は、着



物をさっと着て石に水をまき、玄関の道を自ら掃除をしておられたそうです。そして、いつも二階のベランダからお二人で生徒さんたちの行き帰りを見守っておられたそうです。

家族の輪も広く、お子さんは友末先生のご家族とも一緒に育った、にぎやかな家庭環境だったようです。家庭における食卓、食事、日々の子どものケアの大事さは、リョウ先生がずっと言ってこられたことです。仕事、家庭と忙しい時代になっても、時間を家族とシェアすることを削ると、誰の健康にもつながらないということを実感します。私自身、女性が家事をすればよいという考え方にはまったくの反対ですし、男の仕事はこうで女の仕事はこうということに対してノーと言い続けてきたつもりです。ただ、人として生活していくときには、リョウ先生に見習うべき技術、時間の分かち合い方などさまざまあると思います。リョウ先生の記事を読みますと、「こんなふうにはできない」とか、「これは古いのではないか」ということもあろうかと思えます。しかし、もう少し基本のところ、大事なところを感じ取ってもらえたら、とても勇気づけられるのではないかと思います。リョウ先生は、大変な忙しさの中でお子さんに時間をさかれました。そのことは良い関係性となって、戻ってきたように思います。どのお子さんも、お母さんが大好きです。

被爆から

被爆後の大変壊滅的な被害から、九月には学校を再開されたそうです。在學生が集まってきた瓦礫を自分たちの手で取り除いて、「どうしても学校をつくってほしい。また絶対再開してほしい」とおっしゃったそうです。リョウ先生は、そのことへの感謝を生涯お忘れにならなかったと思います。ご挨拶はいつも「皆さまのおかげです」でした。皆さまに「ありがとうございます」というお言葉です。

リョウ先生ご自身も大変な被害にあわれました。足が骨折し、内臓のいろいろなところに障害が出るほど打撲されたそうです。一緒に逃げた方のお話では、焼け跡にあったトタンをかぶって雨をしのげたから、なんとか生き延びることができたとおっしゃっておられました。その傷は大変ひどく、ご長男が「あのことがなかったら、母の晩年はもっと体の痛みを感じずに平穏に過ぎたのではないかと思う」と書いておられます。その後ずっと体の痛みがあったはずなのです。リュウマチも出ました。絶対に人前で「痛い」などとおっしゃらない方が、夜中にうめき声をあげていた…。その様子から、ご長男は「あんなに我慢強い人がうめき声をあげるなんて」とおっしゃっています。そして、お子さんたちは、母のためになんとかしたいと思われたのです。母のためにとというよりも、母が大事に思っ

ている生徒の皆さんのためになんとかしたいと思われて、復員してこられた先生方と学校のお仕事をされていたと思います。

九十三歳でお亡くなりになる数年前から、体調を崩されて入退院をされました。お見舞いに病院に伺ったときに、「ちょっと待ってください」と言われ、ちゃんと身づくろいをされて、ピッと背中を伸ばして座られて、「よく来てくれました。ありがとう、ありがとう」とおっしゃいました。お辛いときでも、ここというときには乱れた姿を見せないというのが印象的でした。

リョウ先生がお亡くなりになったとき、卒業してずいぶん経つ卒業生の皆さんが、棺にすがり、撫でさするように泣いておられました。こんなにも深い愛情、信頼というのが生まれるものか…。卒業生の方々が、本当に大事に思っている存在であり、そういう関係性をつくられたのです。

安田学園は、すごいスピードで発展していきました。昭和二十一年、軍隊の跡地の払い下げを受けて白島キャンパスに移転されました。それから、着々と大学への道を拓いていけます。基礎が固まったころ、建設中の場所を見せてもらいました。周り是一片、田んぼでした。アストラムラインができるなんて誰も思いませんでしたので、これはラッキーですね。私は安田を離れて、市内での評判を聞き、また小高い丘の校舎を仰ぎ見て本当に感動します。心理学部もできましたね。

リョウ先生の日常

リョウ先生は、とてもおつきあいに幅のある方だったようです。いつも同じたたずまいで、お座りになっても背筋がちゃんと伸びて、寝転がって何かをするようなかんじではない方でした。玄関に人が急に来られたときも、「ちょっとお待ちください」と必ず羽織をお召しになって、姿見できちっとご自分の姿を見て、そして応対に出ておられました。

大変なお仕事の量をこなされていたのですが、いつもスパッと机の上がきれいでした。

リョウ先生は、

「仕事というのは、最後の整理、片付け、報告が終わってから完了する。いつもそこまでを見通して計画しなくてははいけません」

とお書きになられています。そして、本当に自ら実践されていました。

リョウ先生のところにお邪魔すると、よくカステラを出していただきました。リョウ先生がお好きだということで、カステラが先生のところに集まってくるのです。当時は、今み

たいにふんだんにケーキなどはなかったので、カステラをいただくのがとても楽しみでした。どんな方にも、ちゃんとお茶とお菓子を出してくださいました。

「柔しく剛く」という追悼文書には、さまざまな人がさまざまな思い出を書いておられます。長くおそばで家事手伝いをされていた方が、詳しく日常のことを書いていらっしゃいます。いろいろなところへ大集団でお出かけになるご家族だったとのこと。お孫さんたちが、たくさんわさわさと集まってくるわけです。

川瀬の母（川瀬先生のご主人のお母様）は俳句にしたしみ、ピアノは最晩年まで楽しみに弾いていました。それは、リョウ先生から受け継いだ習慣や教育のおかげだと思います。リョウ先生は三味線の竿を折ってしまわれましたが、演芸はお好きだったようです。お子さんたちは、別に誰に習うわけでもなくピアノを弾いたり、演劇など趣味豊かに生活しておられたのではないかと思います。リョウ先生がお亡くなりになられたときの川瀬の母の句をご紹介します。

「母逝って何も手つかず年の暮れ」

リョウ先生と言葉

リョウ先生は、お子さんを叱るときにはきょうだいの前でなさらなかったそうです。一人ずつ応接間に呼んで叱られたそうです。きょうだいがケンカをして、片方が呼ばれると、次は自分の番だとドキドキして待っていた…ということだったらしいのです。

リョウ先生は、

「言葉というのは本当に大事なもので、一度口から出たら本当に取返しのつかないものだから、私は一度、口の中で言ってみる。それから言葉にするのです」

とおっしゃっていました。お子さんたちは、母親がもごもごと口を動かして、何か言おうとしているのだなというご様子を実際に目の当たりにされています。リョウ先生の言葉数は、大変少なかったです。被爆前までのお子さんが小さいころは、食卓でにぎやかにして楽しかったけれども、晩年はむしろ寡黙でいらして、余分なことはお話しにならない。そういう雰囲気になられたとのこと。私もたくさんのお話を聞いたことは全くないのです。

女性に仕事の場を

安田で非常勤を務めさせていただいたことがあるのですが、二人目の子どもが生まれたときでした。子どもをあずけなくてはならなくなったときに、リヨウ先生があずかりますとおっしゃってくださいました。ちょこまかする男の子を、リヨウ先生のところにあずけてお仕事させていただいたことがあります。子どもが苦にならない人でも、年をとると、毎週一回決まった日にあずかるというのはけっこうな重荷と思います。それをしてくださったのですね。三人目が生まれることになって非常勤を辞めたとき、「子どもはあずかるの



であなたは仕事をしたらいいと思った」と言ってくださいました。

リヨウ先生は、女性の仕事場の確保にご尽力されてきました。特に被爆後、困った女性たちはたくさんいました。ケロイドがひどいからと離縁されたような人がいました。大変な世の中の状況でした。「そういう方たちの仕事のための学園です」とおっしゃって、仕事場を確保していかれたのです。そうやって自立して、世の中のお役にたっていかれた卒業生の方はたくさんいらっしゃいます。

自分に厳しく、人には寛容に

夜九時に就寝され、朝早く起床される、というご生活だったようです。何よりも、自分を甘やかさない、そういう方だったと思います。そのかわり、人には寛容な方でした。卒業生にもさまざまなタイプの方がいますが、誰一人として排除することを基本的になさらなかったはずです。

お孫さんたちはなぜかしらお祖母ちゃんのことが好きで、時に緊張するタイプのお孫さんもいたかもしれませんが、リヨウ先生のところに伺うのを皆が楽しみにしたというのが素晴らしいことです。小さな机に座っておられて、お孫さんが来て一緒にきやつきやと遊ぶのです。ずっと背筋を伸ばして座っていらして、ときどき言葉を限ってお話しなさる、その存在が大好きなのです。

私の亡くなった夫は、当然のように「お前も好きなことをちゃんとやらなくてはならない」と言っていました。自分がリヨウ先生にされたと同じように、寛容によく人の話を聞

いて、その人の自律を助ける方向で接していた人のように思います。リョウ先生が、この人を育ててくださったと思っています。その恩恵に私もあずからせていただいていると思います、心から感謝申し上げます。

また、夫は孫の中でも徹底的にリョウ先生に甘えた人でした。お祖母ちゃんのことが大好きで、皆が恐縮していても、このお孫さんはドンと懷に飛び込んでいたと思います。でもそこでしっかりと人生訓は何って、お小遣いももらって帰る…。リョウ先生にとっても甘えた人ですが、次のように文章を締めくくっています。

『ひとつの事業をなしとげた人間として祖母が社会的評価を受けているとするならば、それはまぎれもなく、祖母が一生涯かけて表現し続けた自律と自己に対する非妥協的な生きざまに対して与えられたものであろう。祖母の心を、孫としての情感とは別のところで自分のものにしたいと願っている。』

(講演記録 終わり)

参加した学生の感想から

学生の感想の一部を、抜粋してご紹介いたします。

・川瀬先生の優しい朗らかなお声に、「優しく剛く」に通ずるものが表れているように感じました。また、「リョウ先生と言葉」のお話しがとても印象に残りました。

・川瀬先生の話し方がすごく丁寧で、本当にリョウ先生のことを尊敬されておられると思いました。また、校訓「優しく剛く」は、本当にリョウ先生が安田の学生に訴えたいことのように感じました。

・川瀬先生のお話を聴いて、安田リョウ先生の生き方に尊敬の念をいただきました。とても穏やかで、気分によって乱れた姿を見せることなく、かつ家族を楽しませるなどのアクティブな一面ももっておられる。私も優しい心を持ち、家族を大切に、夢に向かって粘り強く励む女性になりたいと思いました。

・学ぶことへの情熱を絶やさなかったリョウ先生の行動によって、同じ思いの女性がどれだけ救われたらと思うと思います。

・「安田女子大学です」と言うと、「いい大学ですね」と返されることが多いです。この評判は、このような安田学園の誕生の背景、歴史があつてこそだと思います。安田女子大学の学生である

ことに、責任をもった行動をとらなくてはならないと思いました。

- ・自分が安田学園にいることをとても誇りに思います。

- ・リヨウ先生は、常に人のことを考えて、助ける、素晴らしい方だったのだと思います。

- ・大学の授業で安田学園の教育理念について知識を得ていましたが、資料では知ることができないことを聞くことができました。

- ・中学校から安田学園ですが、改めてリヨウ先生は大きな存在の方だと思いました。目標にまっすぐであること、生徒を大事されていたこと、さまざまな人と仲良くされていたこと、印象に残りました。

- ・父親から否定されたら何もしなくなってしまうところですが、リヨウ先生は「では何ができるか」と現実的な考え方をしておられたということに感銘を受けました。

- ・「目標を実現させるためには現実的に考えて行動する」というのがとても印象的でした。常に、目標を見失わないような生き方をされていると感じました。ゆっくり過ごすことや、安心できる時間を共有することの大切さもわかりました。

- ・「痛い」と言わず、周りに心配をかけないようにされていたのは、お優しい方なのだと思います。またお亡くなりになられたときも、多くの人が悲しみ、とても信頼を得ていた方だということがわかりました。

- ・戦争や原爆の犠牲の上に今の平和があるのに、私たちはそういう時代の辛さも生き抜く強さもわからず、甘えているのではないかと反省しました。

- ・安田リヨウ先生は、できれば一度はお会いしたかった先生です。

- ・安田で専門知識を深く学ぶことができることに感謝しています。女子大は何もかも女性がしないといけないという点で、女性が自立し社会に一步踏み出す勇気を得ていけると思います。

- ・安田の幼稚園や小学校では、リヨウ先生の教えを守り続けて、校門に入る際には立ち止まって一礼し、大きな声で挨拶をして、登園・登校しています。リヨウ先生の生き方が受け継がれていることに感動します。

- ・リヨウ先生の娘の薫子さんの「今生の別れや虫の声はげし」という句が、ぶわっと景色が広がってとても印象的でした。リヨウ先生というとても大きな存在を失ったことを、虫までもが嘆き悲しんでいるように感じる。どれほどリヨウ先生のことを愛されていたかを感じ、感動した句でした。

- ・リヨウ先生の周りにおられた家族の方のことも知ることができ、多くの人たちに愛されている先生なのだと感じました。また、一人の女性としてのびのびと勉学に励めているのは、多くの人

たちのおかげだと改めて思いました。

・印象に残ったことばは「学ぶことに意味がある」でした。父親に反対され二度も夢を諦めたそうですが、そこで自分がやるべきことをしっかり見つけ、極められたことがとても素晴らしいと思いました。私も本当にやりたい職についたわけではないですが、4月から自分のおかれた場所でやるべきことをしっかりやっていこうと思いました。

以上

安田女子大学 心理学会 講演会

安田学園創立100周年記念講演会

**安田リヨウ先生が
伝えてくださった 〈柔しく剛く〉**

2015年**11月28**日(土) **13:00**~14:15

安田女子大学 7号館1F **7102**教室

講師 川瀬 啓子先生
安田女子大学名誉教授 臨床心理士

安田リヨウ先生を校門からお見送りする日、卒業生の方たちが
お棺にすがって泣き崩れていらっしゃいました。今年の夏も、
お墓を沢山の供養塔婆が囲みました。いまでも敬愛されるリヨウ
先生について、ご日常のエピソードを拾いながら、「人間」を
学ぶ心理学科の皆さまと一緒に追慕できたらと願っています。

*学外の方・保護者の方もどうぞお気軽にお越しください。
*受講料無料、事前申込不要です。

【お問合せ】 安田女子大学 心理学科事務室 (8号館5階 8518)
TEL&FAX 082-878-9159 〒731-0153 広島市安佐南区安東6-13-1

5. こころと出会う仕事（卒業生紹介）

12月10日（木）まほろば教養ゼミの時間に、学科行事としてOGシンポジウムを行いました。この時に来てくださった卒業生の仕事について、学生運営委員が報告いたします。

藤原 美希さん

社会福祉法人 さくら福祉会 母子生活支援施設

いもせハイツ 心理士・児童相談員

平成26年度心理学科卒業

仕事場について

藤原さんは母子生活支援施設で心理士、児童指導員として働いています。母子生活支援施設とは、18歳以下の児童とその養育者が入所して自立に向けた支援や相談を受ける児童福祉施設となっており、親子が離れることなく生活できることが特徴となっています。児童福祉施設では何が起こるか分からないため、24時間365日の態勢で週一回宿直勤務という泊まりの勤務があります。

仕事内容

心理士の仕事として、児童に箱庭療法などのプレイセラピーを行っています。さらに藤原さんは児童指導員という仕事も兼任しています。児童指導員というのは心理学科、教育学科、社会学を学んで児童福祉施設に勤めることで名乗ることのできる資格です。主に生活や学習の指導、幼児保育や養育者への対応などほぼ全ての業務を請け負います。虐待や育児放棄、ネグレクトなどの家庭では、職員がゴミ屋敷の清掃や風呂の入らない家族の入浴介助を行うなどの支援を行っています。いもせハイツでは年間30以上の行事を行っており、社会経験が乏しい母子に対して楽しんでもらうことや、ルールを学んでもらう等の意図を込めて職員が計画を立てるようになっています。



仕事に対する気持ち

施設によって支援の方針が様々であるため、もし就職を考える際は見学や実習などによって見極めることが大切です。私は心理士、児童指導員としてこの場を担当しているの



すが、適切な養育環境とは言えず、親に甘えたいと思っけていても甘えられない児童や、親の能力より児童の能力の方が上回っており、そのことによって上手いかず悩んでいる子供たちがたくさんいます。母子生活支援施設での仕事は、そんな子供たちの期待に応えてあげられる素晴らしい仕事だと感じています。

最後に

母子生活支援施設は社会に認知されていない状況ではありますが、施設の必要性は今後高まっていくと思っています。皆さんは女性なので、結婚や出産などこれから大変なことがあると思います。これらの施設による支援も得られるので、困った時は福祉事務所の方へ相談に行ってください。

(報告者：心理学科 3 年 1 組 有谷 久美子／3 年 2 組 三笹 紀京)



掲野 ひかるさん

株式会社中電工 山口東部支社 総務課

平成 25 年度心理学科卒業



職場について

掲野さんが勤務する株式会社中電工は、中国電力のグループ会社です。主に、総合設備を行う会社で、電柱やお客様のコンセントの調子を直す仕事やマツダスタジアムの電気工事など幅広く取り扱っています。

仕事内容

総務課に所属しており、経理の業務を担当しています。トイレ掃除や会社の収支、更には工事費の管理など沢山業務内容があり、まさに縁の下の力持ちです。

就職活動中の体験談

以前行われた OG シンポジウムを聞いて印象深かったことは、「3つの軸を作る」ということです。例えば、絶対に事務がいい、営業がしたいなど自分の希望をはっきり決めて就職活動を行うと気持ちが楽になり、面接でも話せました。他に、自分の納得のいくまで準備をする、早めに行動する、キャリアセンターに足を運ぶなど様々行いました。特にセンター長のお話は役に立ちました。また、他己分析シートを使用し、自分が他人からどのように思われているか知ることができて良かったです。データはまだ掲野さんが持っているので皆さんも活用してみてください。

最後に

心理にまつわる仕事ではありませんが、人との距離感や人の話の聴き方、接し方において心理で学んだことが活かされていると思います。現在人間関係において特に不安に思うことはありません。皆さんも心理が直接結びつかない仕事を志望していたり、就職したとしても、気を落とさずに頑張ってください。



(報告者：心理学部 4 年 1 組 久國 綾華)

帯刀 悠香さん

呉市立呉高等学校 非常勤講師

平成 24 年度心理学科卒業・平成 26 年度大学院教育学・心理学コース修了

就活、職場について

文学部心理学科卒業後、博士前期課程へ進学し、現在は高等学校で非常勤講師の仕事をしています。大学 4 年生の時から教員採用試験にチャレンジし、大学院修了後、2015 年 2 月に呉市教育委員会に履歴書を提出し、3 月下旬現在勤務している学校の非常勤講師の内定をいただきました。内定をいただいた時は安心感よりも、教師として働ける喜びが大きかったのを覚えています。

高等学校では公民科の授業を担当し、授業以外では会計など学年のお仕事、学校 HP 用の原稿作り、生徒指導等を担当しています。

来年からは、教員採用試験に合格したため県内の中学校に勤務します。



やりがい・喜び

仕事をする中でのやりがい・喜びの一つは、生徒や先生方との交流です。生徒は自分の思い付かなかった発想や考えを持っており、とても面白いです。先生方からは授業の仕方や生徒との接し方を教わるだけでなく、人の温かさ、人生とは何かを学ばせていただきます。学校に行くのがしんどいと感じる日も、生徒や先生方に会えることを楽しみに、仕事に行っています。

時には、生徒指導後「こう言っておけばよかった…」と後悔することもあります。そういったときには、周りの先生に相談することが大切です。

大学生に提案したいこと

色々なことに興味を持ってください。そうすると人生が楽しくなり、視野を広げることができます。そしてその経験は将来に結び付くと思います。



自分とは異なる考えや価値観を知ってください。自分の考えや価値観の幅を広げるチャンスです。自分と違ったものを認め合う関係を作り上げていくことは、これから役立ちます。

今日の前にあることを一生懸命楽しんでやってください。大学は、学ぶこと自体を楽しめる場です。時には壁にぶつかることもあります。ぶつかることで自分の考えをさらに考えを掘り下げることや他者の考えを尊重することができるようになります。

失敗は、失い敗れると書きますが、実際は失い敗れることではありません。失敗することは経験の一つだと思います。失敗して諦めたり、チャレンジしないのはもったいないことです。自分の経験を生かすチャンスをつぶさず、失敗を成功への布石とし、進み続けてほしいです。

(報告者：心理学科3年1組 有谷 久美子)

安田女子大学 心理学部 心理学科

OGシンポジウム

【日時】平成27年12月10日(木) 13:20~14:30
*掃除を済ませて時間厳守

【場所】7号館6階 7102教室

【対象】心理学科全学年

講師

* 藤原美希(ふじはら みき) さん
平成26年度心理学科卒業
社会福祉法人 さくら福祉会 母子生活支援施設 いもせハイジ
心理士・児童相談員

* 堀野 ひかる(あげの ひかる) さん
平成25年度心理学科卒業
(株)中福工 山口東部支社 総務課 総務

* 帯刀 悠香(たてわき はるか) さん
平成24年度心理学科卒業、平成25年度大学院教育学・心理学コース修了
兵市立兵高高等学校 非常勤講師
H28年度 広島県教員採用試験 中学社会 合格

お問合せ先 心理学科事務室 6号館5階555

6. 私の研究紹介（心理学科 4 年生）

視線利用者における他者の視線情報に対する注意に関する検討

河村 優子

（藤原裕弥研究室）

Key words：視線，間違い探し課題，チェンジブラインドネス，変化盲



問題と目的

人は発達のかかなり早い段階から他者の視線方向に対する注意に敏感であるという（市川・坂田，2012）。加えて，視線は他者の考えや注意の対象の推測に有効であるという（栗原・本間・長田，2012）。我々はこの他者の視線方向を無意識に利用することで，その後の自分の行動を調節したり，他者の考えを読み取ったりしている。また，Yarbus（1967）は，実験参加者がどこを見ているのかを調べるため，1分間の眼球運動の測定を行った。その結果，少女の顔写真を刺激に用いると，目の周辺に最も視線が集中していたという。さらに，人物のいる部屋の写真を刺激に用いると家具や人物などに視線が集中していた。これは視線が特定の事物に対して集中的に向くことを示しており，また，人物の目が注意の対象となることで視線利用に繋がるためではないか考える。しかし，このような他者の視線利用には個人差があり，視線を利用しやすい人としにくい人がある可能性があると考えた。また，視線を利用しやすい人は，視線を手がかりとして周囲の変化に敏感に反応するのではないかと考えた。

そこで本研究では，視知覚における変化の見落としのことであるチェンジブラインドネスの確認法を用いて，視線利用特性と人物の目，対象物の変化の気づきを測定することを目的とした。仮説として 1 つめに，視線利用者は，人物の目や人物の視線が向けられている対象物領域における変化に気づきやすい，2 つめに視線利用者は，人物の目や視線の向けられている対象物領域における変化への反応時間が短いと考えた。

なお，本論文では 2 つの研究を行ったが，ここでは研究 2 に焦点をあてて述べること

とする。

方 法

実験参加者 女子大学生 46 名（平均年齢 19.13 歳，18－22 歳）

調査時期 2015 年 10 月

実験刺激 パソコンソフトを用いて課題を作成した。2 枚の画像の相違点は，人物の目（図 1），人物の視線の向けられた対象物（図 2），人物の視線とは無関係な対象物とし，各 5 問の計 15 問作成した。



図 1 人物の目の変化した刺激例

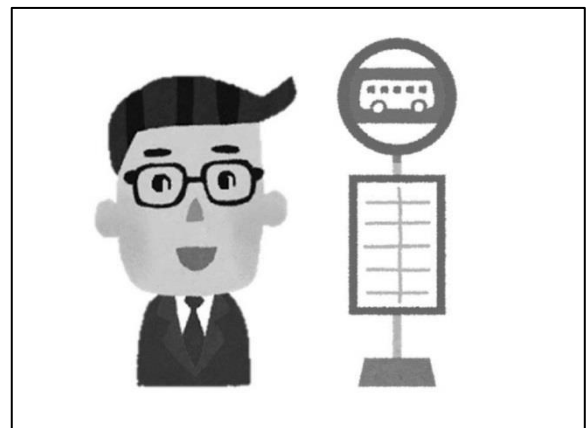


図 2 人物の視線の向けられた対象物が変化した刺激例



質問紙 視線利用に関する自作の 5 項目（例：人の視線の先をつい見てしまう）につい

て 6 件法で回答を求めた。

実験装置 刺激を呈示してからボタンを押すまでの時間を測定する、PC タキストスコープを用い、反応時間の測定を行った。

手続き 課題説明後、参加者は本課題 15 試行を行った。この課題は、まず注視点が呈示され、参加者がボタンを押すと 2 枚の画像が 1.5 秒間ずつ呈示された。2 枚の画像の間に 0.83 秒間のブランクを挟み、参加者には 2 枚目の呈示後から 1 枚目と 2 枚目の画像の相違点に気づいた時点でボタンを押し、口頭で回答するよう求めた。実験者は課題終了後、視線利用に関する質問紙を配布し回答を求めた。

結果と考察

まず、実験参加者ごとの質問紙の合計点を算出したところ二属性がみられた。よって、中央値より高い人を視線利用特性高群、低い人を視線利用特性低群とし分析を行った。

課題の正答数に対して視線利用特性×領域の 2 要因分散分析を行った結果、視線利用特性 ($F(1, 44)=5.52, p<.05$) と領域 ($F(2, 88)=53.79, p<.001$) の主効果、交互作用 ($F(2, 88)=7.10, p<.001$) が認められた。下位検定の結果、人物の目、視線と無関係な対象物の正答数、視線の向けられた対象物の順に正答数が多く、すべてに差が認められた ($ts(44)>1.19, ps<.001$)。また図 3 に示すように人物の目についての正答数は視線利用高群の方が低群より多かった ($F(132)=4.39, p<.001$)。つまり、視線利用高群の方が、目の向きの違いに対して敏感であるといえる。しかし視線の向けられた対象物については視線利用高群の方が正答数が多いとはいえず、仮説 1 は一部支持された。

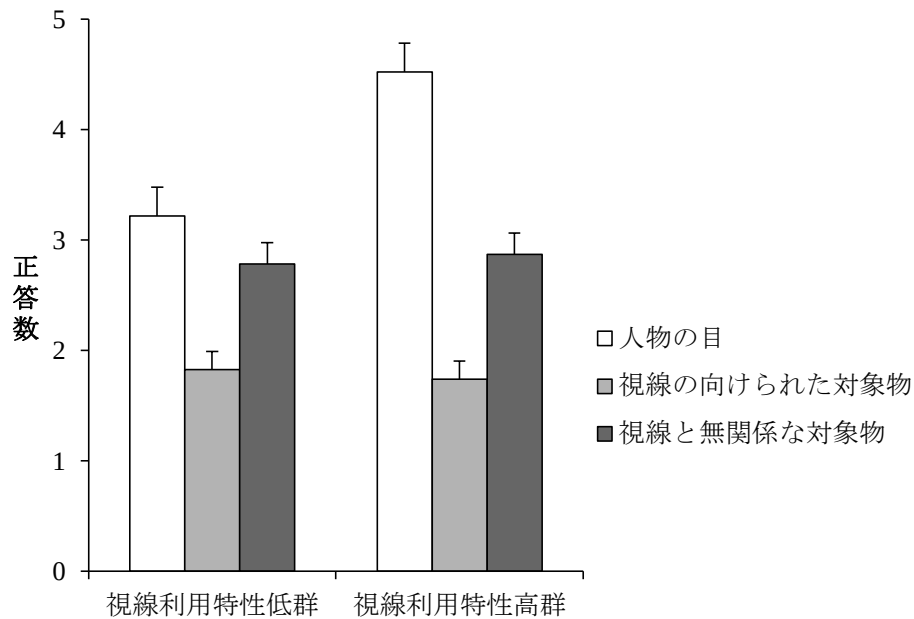


図3 視線利用特性における正答数

また、反応時間に対して視線利用特性×領域の 2 要因分散分析を行った結果、視線利用特性 ($F(1, 41)=22.50, p<.001$) と領域 ($F(2, 82)=3.19, p<.05$) の主効果が認められたが、交互作用は認められなかった ($F(2, 82)=2.31, n.s.$)。つまり視線利用特性高群の方が低群より反応時間が速いとはいえず、仮説 2 は支持されなかった。

本研究の結果、視線利用特性高群の方が低群より人物の目の変化を多く見つけており、人物の目をよく見ているといえる。これは Yarbass (1963) の研究を支持しており、視線利用特性に関わらず、人物の目は注意の対象であった。また、領域に関わらず反応時間も視線利用特性高群の方が速かった。これは、視線利用者が「どこかが変化した」ことを敏感に察知しているということであり、視線を利用する人の方が周囲の変化に敏感であることを示している。つまり、他者の目は注意の対象であり、視線を利用する人は特に目に敏感である可能性が示唆された。

引用文献

市川恭子・坂田陽子 (2013). 他者の視線方向による手がかり効果における加齢の影響について 愛知淑徳大学論集—心理学部篇—, **3**, 23–28.

栗林大輔・本間元康・長田佳久 (2012). 対面状況における視線一致の範囲と個人特性 立教大学心理学研究, **54**, 51-58.

Yarbus,A.L.(1967). *Eye Movements and Vision*. Plenum Press ;New York.

卒業研究を終えて

以前から他者の視線方向に関心があったため、視線に関する文献を読んでいく中で、チェンジブラインドネスについて知り、これらを組み合わせた研究を行うことにしました。チェンジブラインドネスを用いて視線を研究している文献にはなかなか出会えず、研究 1 は改善点と反省ばかりでした。しかし、実験方法を見直し、新しい装置を用いて研究 2 を行ったことで、自分自身が納得できる卒業論文を書くことができました。また、焦りや不安の中、妥協せず最後まで取り組んだことは、今後の自信にもなりました。

卒業後は地元の大学院に進学し、新たな環境で心理学を学んでいきます。卒業論文や進路決定までの苦悩、日々の授業やボランティア活動での学び、この 4 年間で経験したことはすべて、私の財産であり、これからの糧になると思います。これから卒業研究を行う皆さんも、研究が思い通りに進まず苦労することもあると思いますが、逃げずに自分の研究としっかり向き合って、納得のいくまで取り組んでください。その経験は将来、皆さんに力を与えるはずです。

最後になりましたが、指導教員の藤原先生、平石先生をはじめ、実験に参加して下さった皆さん本当にありがとうございました。

7. 教員の研究紹介

西川 京子 講師

(社会科教育学)



はじめに

みなさんは心理学に関心があるので、社会科教育学研究の詳細には興味がないでしょう。そこで、ここでは私の研究と心理学の接点にしぼって話をしていきたいと思います。（私が母校でOGとして講演した内容を抜粋して掲載しています。）

心理学と私の研究との接点① ～ 子どもの自ら考える力に寄りそう授業づくり ～



私は、学生時代に、子どもをキャンプに連れていくボランティア活動をしていました。あるキャンプで、竹を使って箸とお椀を作り、ご飯を食べるという活動がありました。

全体で説明を受けたあと、どのグループも「よし、作るぞ」と作業に取りかかりました。ところが、私のグループの子ども達だけ、いっこうに作ろうとしませんでした。何をしていたか…。

バツタを追いかけてました。私が「もうみんな作りはじめてるよ」と言うと、子ども達は「なんでつくらんや、いけんのん、バツタ、とりようるんじゃけ。」と反論しました。

こんな時、みなさんだったら、どうしますか？



大学二年生の私は、「バッタはあとでとろう、そのかわり、世界にたった一つしかないオリジナルの箸を作って食べたら、すんごくおいしいよ!」「この竹いい香り、のこぎり、楽しい!」「重たい!助けて!ありがとう!」と、あれこれ働きかけ、場の雰囲気盛り上げ、子ども達をその気にさせました。

その結果、どのグループよりも、竹や仲間の良さを味わうという活動目標を達成することができました。

ところが、心理学や社会科授業構成論を学んで、理論と実践を結び付けて考えるようになると、この手法の欠点に気づきました。私は「箸を作ればひとつ大きく成長できるよ、こんないい世界が広がるよ」と、常に高みにいて、こっちにおいでと子ども達をリードし、目的や私の思いを押し付け、子どもの本当の思いを大事にしていませんでした。そのため、私の想定範囲の成長にとどまらせ、学びを人任せにする姿勢を育ててしまいました。

A 授業開発研究

子ども達は、虫に興味、関心があったのですから、彼らの思いに寄りそって、竹で虫かごやバッタを作る活動に変えれば良かったと後悔しました。

こちらの活動目標は、箸づくりでなくても、十分に達成できたのですから。

それができるようになるには、同じ目標でも、子ども達の興味・関心に合わせて活動を変えていける

柔軟性と、自分自身の引き出し（竹の特性、その多様な活かし方、その作り方）を増やすことが必要です。以来、私は、子ども達がより「やりたい、考えたい、そうなりたい」と思える、子どもの思いを引き出すネタ探し（教材研究）や、子どもの思いに寄り添う授業づくり（教材開発研究）を行ってきました¹。

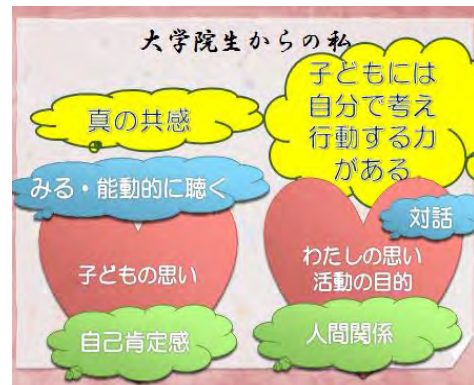
ところが、心理学や社会科教育学を学ぶと、これでも、まだまだである、ということに気づかされました。子ども達には、自ら考え、行動する力があると信じていながら、結局は、子ども達が生き活きと活動するよう見えているだけで（それでも、子どもは私を大きく超えていくとはいえ）、私の手のひらで活動させているにすぎませんでした。



B イギリス地理教材を手がかりに、学習方法論を解明する

心理学で大事にされているのが傾聴です。これをすれば、私が考える虫かごなどの方法より、多くのアプローチや相手にあう方法が見つかります。

リーダー格の男の子は、虫が掴まえられるからと言われて仕方なく参加していました。箸を作ろうとしなかったのは、自由時間の少ない日程や私への反発が原因かもしれません。



もし、私がその気持ちを真に共感した上で、箸づくりを通してより良い力をつける経験をしてもらいたいという、私の思いを伝えていたら、時間を決めて取り組む、虫かごを作ろうという提案が、子ども達から出ていたかもしれません。そうすれば、虫かごがうまく作れなくても、人のせいにするような学びを人任せにする言動は生まれません。

こうして、教える側の論理と学ぶ側の心理をどのように統合すればよいのかを考えるようになりました。そして、そのヒントがイギリス地理教材につまっていることに気づき、これらを研究対象として、子ども達が何をどのように学ぶように学習を組み立てていけばよいのか、を明らかにする学習方法論の研究を行うようになりました。

そのような中で出会った、イギリス地理教材' Jigsaw Piecesⁱⁱ' を手がかりにした研究では、援助行動の心理学で指摘されている人を助ける心理過程に沿った学習過程、類推によって、他人事になりがちな地球規模の問題を自分事にしていく学習活動、ピース学習（現在ジグソー法として注目されているものと形態は同じですが、それが協働をうたいながら競争原理が働く子どもの心理に配慮していないため、区別しています）を取り入れて地球規模の協働性を培う学習形態を持つ学習方法論を解明しましたⁱⁱⁱ。

心理学と私の研究との接点②

～ ヒューリスティクス（無意識の思考過程）を取り入れた授業づくり ～

A グローバル学習方法論の解明

「きりなし絵」というのを知っていますか？子どもが読んでいる絵本の絵をよく見ると、その絵は、その子どもが絵本を読んでいるところで、その絵本の絵もまた、その子どもが本を読んでいる…と、どこまでもつづく絵のことです。



私達は、無限の宇宙空間の中で、無限に流れる時間の中に生きています。そうした大きな、広い、長い中での存在が「私」であり、地球であり、様々な社会的事象である、それを認識するということは、とても難しいですが、とても大切なことです。

なぜなら、心理学でいう社会的自己認識、すなわちグローバル社会における自分の位置、役割が分れば、貧困や温暖化などの地球規模の問題はもちろん、ポイ捨てや公道をふさいで歩くといった日常生活の小さな問題行動も改善し、自分や多様な他者がエンパワーメントをより発揮して活躍できるようになると考えられるからです。

こうした社会的自己認識や、目の前にいる誰かはもちろん、いつかのどこかの誰かも、同じ人間として尊重できる連帯意識といった、活き活きと自己実現をはかりながら多様な他者と協働して、同時代や次世代にとってより平和で公正な社会を形成していく力（私は「地球的市民性」と呼んでいます）を培うには、何をどのように学ぶ学習を組み立てればよいのかを研究してきました（グローバル学習方法論と呼んでいます）。

きっかけは、卒業研究でイギリスのワールドスタディーズという、大国の価値観を押し付けるのではない、グローバル教育を扱ったことでした。これも世界の探究という教える側の論理と自己の探究という学ぶ側の心理を統合が考えられており、ある時期のイギリスの地理教材は少なからずワールドスタディーズの影響を受けています。

B アルゴリズムとヒューリスティクスの統合

現在は、社会心理学や教育心理学との接点であるアルゴリズム（論理的、批判的に情報を吟味する思考過程）とヒューリスティクス（迅速だが安直な情報処理による無意識の思考過程）の統合を通して「地球的市民性」を培うグローバル学習方法論を明らかにしようと研究を進めています。

例えば、下記の状況に遭遇したら、あなたはどのようなことを考えますか？

あなたは、ある国へ、海外旅行に行きました…。

ところが、真っ昼間だというのに、どこのお店もとても薄暗いのです。

営業していないのかと思うほどですが、これが普通だそうです。

地理学では、景観は人の心が創り出すと考えるので、左記の状況は見る人によって、異なった景観として認識されます。中でも、地球規模の問題と深く関わっている経済成長優先主義などに基づくヒューリスティクスによって、その認識、判断が歪められることに、私は注目しています。

なぜなら、歪められた認識、判断のままでは地

球規模の問題は解決できず、「地球的市民性」をより公正で平和なグローバル社会づくりに発揮していくことができないからです。

例えば、上記の状況下では、自分の習慣や文化を基準に判断する自文化中心主義や、物質的な豊かさのみで生活の質を捉える経済成長優先主義に基づくヒューリスティクスが働きのちです。そのため、電気をつけないことを貧しく劣っている、不衛生、などと悪く捉えてしまいます。学校で習った自然環境や歴史の視点から捉えようとしません。ヒューリスティクスは学ぶ側の心理といえます。

ちなみに、赤道直下の地域はとても暑く、一年中、太陽の光熱に照りつけられています。そこで暮らす人々は光を熱として感じ、電灯の明かりを浴びるだけで汗が出ます。実際、二週間程度カンボジアで過ごすと、日本人の私でも電灯の明かりは暑苦しく感じるようになります。世界から見ると、日本ほど電灯が明るく長時間点灯している地域はありません。日本の方が持続可能でない、劣った習慣を持っているのかもしれませんが。

ヒューリスティクスによる認識、判断の誤りを自己制御できるよう、これまでは地理的学習などを通して、アルゴリズムの強化がなされてきました。上記の例では、文化や生活の質を物質的な一面的見方で誤った認識、判断をしないよう、歴史的、政治的、地理的…と多角的に捉える必要性を教えてきました。アルゴリズムは、教える側の論理といえます。

ところが、アルゴリズムの強化だけでは、ヒューリスティクスによる誤りは自己制御できないことが知られています。心理学研究においては、こうしたヒューリスティクスによる誤りを自己制御するには、アルゴリズムとヒューリスティクスの統合を促す必要性が指摘されています。私は、これらの統合を通して「地球的市民性」を培う研究をしています。現在は、その研究成果の一つを研究雑誌に投稿し、審査結果を待っている所です。掲載されたら、ぜひ、読んでみてくださいね。

参考文献（心理学研究における表記方法でない点、ご了承ください。）

i 西川京子「国際理解学習：行動への連帯」『社会科教育実践ハンドブック』明治図書, 2006, pp.69-72.

西川京子「社会のグローバル化に対応した社会科教育内容の授業づくり」『新社会科教育実践ハンドブック』明治図書, pp.101-102. 他

ii Lambert,D., 'Jigsaw Pieces', Cambridge,1992.

iii 西川京子「グローバルな資質を育成する環境問題の学習方法論—イギリス地理教科書『地理：人々と環境』の場合—」『社会科研究』第49号, 1998年, pp.21-30.

西川京子「グローバルに考えローカルに行動する資質を培う社会科学学習方法論—ケンブリッジ地理プロジェクトの単元『端で暮らす』の分析を手がかりに—」『社会科研究』第70号, 2009年, pp.41-50. 他